

オイラー線



オイラー線?
おいらせん?
おいらせん?

おい!!
らんせん!!

実に不思議なことに、三角形の重心、垂心、外心は一直線上に並びます。この直線を三角形のオイラー線と呼びます。まずは復習を兼ねて、次の具体例で検証してみよう。犬プリ『垂心と外心のベクトル表示』も参照のこと。

例題 $AB = 1, AC = 3, \vec{AB} \cdot \vec{AC} = 2$ である三角形 ABC がある。

- (1) 三角形 ABC の重心を G とする。 \vec{AG} を \vec{AB}, \vec{AC} を用いて表せ。
- (2) 三角形 ABC の垂心を H とする。 \vec{AH} を \vec{AB}, \vec{AC} を用いて表せ。
- (3) 三角形 ABC の外心を O とする。 \vec{AO} を \vec{AB}, \vec{AC} を用いて表せ。
- (4) 重心 G, 垂心 H, 外心 O の位置関係を調べよ。
- (5) \vec{OH} を $\vec{OA}, \vec{OB}, \vec{OC}$ を用いて表せ。

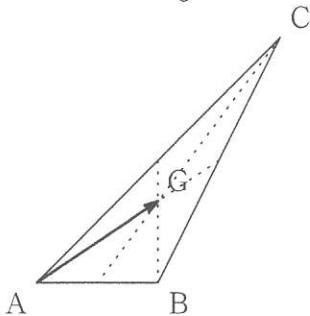
垂心と外心のベクトル表示はもう大丈夫ですわ

ふん 😊 ちょっと自信ナリ...

考え方 (1) は問題ないでしょう。(2)(3) は、平面 ABC 上の任意の点 P が $\vec{AP} = s\vec{AB} + t\vec{AC}$ と表されることを利用します。垂心、外心の性質から s と t の関係式を 2 個つくればよいのです。いずれも「垂直」が絡んでくるので内積を利用することがポイント。 😊 そーや。そーや。

実は、今回の場合、三角形 ABC は鈍角三角形になっているので、垂心と外心が三角形の外部にあります。ですが、そんなこと知らなくても機械的に解けるので、気にせずにどんどんやります。 😊 あーそう。

解 (1) $\vec{AG} = \frac{\vec{AB} + \vec{AC}}{3}$



これは乗勝♡
よゆう

(2) \vec{AB}, \vec{AC} は 1 次独立なので、

$\vec{AH} = s\vec{AB} + t\vec{AC}$ ← まずはこのように設定するのでした。

とおける。

$$\begin{aligned} CH \perp AB \text{ より, } \vec{CH} \cdot \vec{AB} &= 0 \\ (\vec{AH} - \vec{AC}) \cdot \vec{AB} &= 0 \\ \vec{AH} \cdot \vec{AB} &= \vec{AC} \cdot \vec{AB} \\ (s\vec{AB} + t\vec{AC}) \cdot \vec{AB} &= \vec{AC} \cdot \vec{AB} \\ s|\vec{AB}|^2 + t\vec{AC} \cdot \vec{AB} &= \vec{AC} \cdot \vec{AB} \\ s + 2t &= 2 \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

始点をそろえる

$$\begin{aligned} BH \perp AC \text{ より, } \vec{BH} \cdot \vec{AC} &= 0 \\ (\vec{AH} - \vec{AB}) \cdot \vec{AC} &= 0 \\ \vec{AH} \cdot \vec{AC} &= \vec{AB} \cdot \vec{AC} \\ (s\vec{AB} + t\vec{AC}) \cdot \vec{AC} &= \vec{AB} \cdot \vec{AC} \end{aligned}$$

始点をそろえる

$$\begin{aligned} s\vec{AB} \cdot \vec{AC} + t|\vec{AC}|^2 &= \vec{AB} \cdot \vec{AC} \\ 2s + 9t &= 2 \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

①, ② より, $s = \frac{14}{5}, t = -\frac{2}{5}$. したがって、

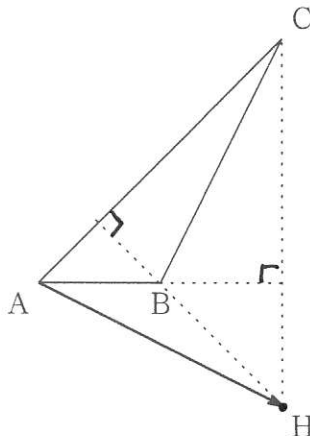
$\vec{AH} = \frac{14}{5}\vec{AB} - \frac{2}{5}\vec{AC}$ 😊 できました~

注 むしろこの結果をみて、「ああ、垂心は三角形の外部にあるんやな。ということは、三角形 ABC は鈍角三角形やったんか」と気づいてほしいところ。なせなら、 $\vec{AP} = s\vec{AB} + t\vec{AC}$ のとき、点 P が三角形 ABC の内部にある条件は

$0 \leq s + t \leq 1, s \geq 0, t \geq 0$ とても大切なこと

なので、今回の場合これに適合していません。

ちなみに 位置関係は以下の通り。



ふんまや~

こんなところに垂心 H があつたか... たしかに最初から分かることではな... ぶん 知らんかったわ

(3) \vec{AB}, \vec{AC} は 1 次独立なので,

$$\vec{AO} = s\vec{AB} + t\vec{AC} \quad \leftarrow \text{まずはこのように設定します。}$$

とおける。

辺 AB の中点を L, 辺 AC の中点を M とすると,

$$LO \perp AB \text{ より, } \vec{LO} \cdot \vec{AB} = 0$$

$$(\vec{AO} - \vec{AL}) \cdot \vec{AB} = 0 \quad \leftarrow \text{始点をそろえる}$$

$$\vec{AO} \cdot \vec{AB} = \vec{AL} \cdot \vec{AB}$$

$$(s\vec{AB} + t\vec{AC}) \cdot \vec{AB} = \frac{1}{2} \vec{AB} \cdot \vec{AB}$$

$$s|\vec{AB}|^2 + t\vec{AC} \cdot \vec{AB} = \frac{1}{2} |\vec{AB}|^2$$

$$s + 2t = \frac{1}{2}$$

$$2s + 4t = 1 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$MO \perp AC \text{ より, } \vec{MO} \cdot \vec{AC} = 0$$

$$(\vec{AO} - \vec{AM}) \cdot \vec{AC} = 0 \quad \leftarrow \text{始点をそろえる}$$

$$\vec{AO} \cdot \vec{AC} = \vec{AM} \cdot \vec{AC}$$

$$(s\vec{AB} + t\vec{AC}) \cdot \vec{AC} = \frac{1}{2} \vec{AC} \cdot \vec{AC}$$

$$s\vec{AB} \cdot \vec{AC} + t|\vec{AC}|^2 = \frac{1}{2} |\vec{AC}|^2$$

$$2s + 9t = \frac{9}{2}$$

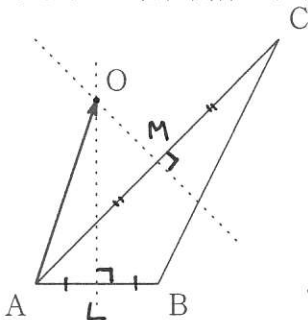
$$4s + 18t = 9 \quad \dots \textcircled{2}$$

①, ② より, $s = -\frac{9}{10}, t = \frac{7}{10}$. したがって,

$$\vec{AO} = -\frac{9}{10}\vec{AB} + \frac{7}{10}\vec{AC} \quad \leftarrow \text{完成}$$

注 むしろこの結果をみて, 「ああ, 外心は三角形の外部にあるんやな. ということは, 三角形 ABC は鈍角三角形やったんか」と気づいてほしいところ. 理由は (2) と同じ.

ちなみに 位置関係は以下の通り.



あんまりこころあたらない...
ふん 知らなかった

(4) (1)(2)(3) より,

$$\vec{AG} = \frac{1}{3}\vec{AB} + \frac{1}{3}\vec{AC}$$

$$\vec{AH} = \frac{14}{5}\vec{AB} - \frac{2}{5}\vec{AC}$$

$$\vec{AO} = -\frac{9}{10}\vec{AB} + \frac{7}{10}\vec{AC}$$

いったい G, H, O にどんな関係があるのかな?

あ〜おんね.

$$\vec{OG} = \vec{AG} - \vec{AO}$$

$$= \left(\frac{1}{3} + \frac{9}{10}\right)\vec{AB} + \left(\frac{1}{3} - \frac{7}{10}\right)\vec{AC}$$

$$= \frac{37}{30}\vec{AB} - \frac{11}{30}\vec{AC}$$

外心 O を始点に $\vec{OG} \cdot \vec{OH}$ をつくると...

あ〜

$$\vec{OH} = \vec{AH} - \vec{AO}$$

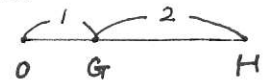
$$= \left(\frac{14}{5} + \frac{9}{10}\right)\vec{AB} + \left(-\frac{2}{5} - \frac{7}{10}\right)\vec{AC}$$

$$= \frac{37}{10}\vec{AB} - \frac{11}{10}\vec{AC}$$

あ〜あ〜

$$\therefore \vec{OH} = 3\vec{OG} \quad \leftarrow \text{ヤッタ}$$

したがって, 外心 O, 重心 G, 垂心 H は同一直線上にあり, $OG : GH = 1 : 2$ である.



(5) (4) より,

$$\vec{OH} = 3\vec{OG}$$

$$= 3 \cdot \frac{\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}}{3}$$

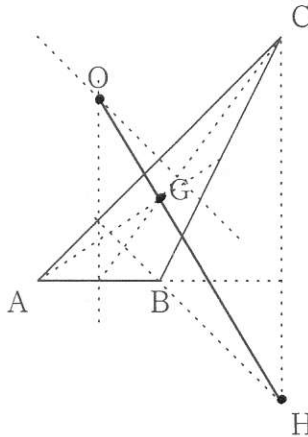
$$= \vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}$$

これはとても美しい結果!!

感動...

この式も美しい....

注 全部重ねて書くと, 下のようになります.



たしかに, O, G, H が一直線上にあります!!

あ〜 すごいな〜 信じられないよ〜 数学, ておもしろいよ

参考 以上の結果から

$$O \text{ が外心, } H \text{ が垂心} \implies \vec{OH} = \vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC}$$

であることが分かりましたが, 逆は成立しません. つまり,

$$O \text{ が外心, } H \text{ が垂心} \stackrel{\text{O}}{\iff} \vec{OH} = \vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC} \quad \times$$

しかし, 次の命題は成立するので, 証明しておきましょう.